

# ハラビロハンミョウ

コウチュウ目ハンミョウ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

*Cicindela sumatrensis niponensis* Bates

## 選定理由

全国的に分布が限られる種で、個体数が著しく減少している。県内においても生息場所が海岸に注ぎ込む細流の河口部付近の砂浜に限られるため、生息地の消滅により個体数が激減している。

## 形態

体長13mm程度である。体背面は黒っぽく鈍い金属光沢があり、白い斑紋を持っている。

## 国内分布

本州では新潟県以西に分布し、九州、種子島にも分布するが、産地は点在しているにすぎない。

## 県内分布

かつては加賀地方から能登地方の外浦海岸に分布していたが、現在は、加賀市および内灘町から志賀町、珠洲市の海浜の一部だけに限定される。

## 生態

成虫が見られるのは、海岸に注ぎこむ細流の河口部の砂浜に多く、汀線沿いにも少ないながら見られる。また、幼虫は河口部の砂浜に多い。成虫は秋に羽化して越冬するようで、春に交尾、産卵する。

## 生息地の条件

海岸に注ぎこむ細流の河口部の砂浜の周囲が本種の生息中心域である。背後に海浜植物や松林などの植生があることや細流の水が汚染されていないことも重要である。

## 生存の危機

海浜に流れる細流の汚染や破壊、護岸工事、砂浜への車の乗り入れ、植生の破壊などの人為活動は、本種の生息地を消滅させることにつながる。特に四輪駆動車の乗り入れによる生息地破壊が目立つ。また、採集圧も大きな脅威となっている。(A)

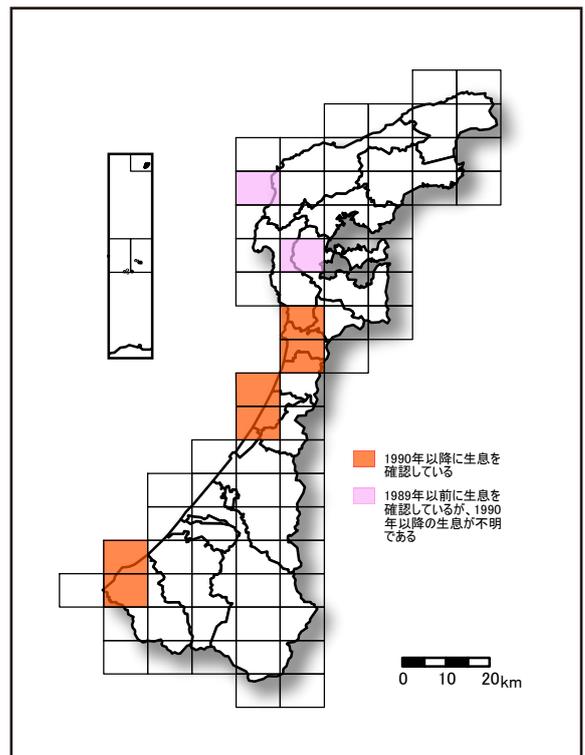
## 参考文献

中根猛彦 1973. 日本の甲虫(2). 昆虫と自然, 8(10): 7.

徳本 洋 2003. 石川県能登半島におけるハラビロハンミョウ成虫の春期出現状況. とっくりばち, (70): 1-7.



写真提供者: 富沢章



県内の分布